

平成23年6月13日

東北電力株式会社
社長 海輪 誠 様

要 望 書

要望事項

東北地方太平洋沖地震の余震が頻発し、また、M8を超える余震が起こる可能性が否めない現在、東京電力福島第一原子力発電所の重大事故の再来を防ぐ観点から、女川原子力発電所並びに東通原子力発電所の安全性について至急抜本的に見直し、余震やそれによる津波被害を想定し、①耐震②津波③電源喪失についてなど、二重三重の安全対策を施し万全を期すこと。

万全の安全対策について東北各県毎に複数の主要な所で説明会を開催すること。

原子力発電の安全に関し、福島第一原子力発電所の重大事故の全容が解明され、事故処理が完全に行われて、避難生活を余儀なくされた福島県民すべてが、事故前の生活を取り戻すことが確認できるまでは新たな原発の建設計画を凍結させ、停止中の原発を稼働させないこと

要望理由

東京電力福島第一原子力発電所では、東北地方太平洋沖地震と津波による全電源喪失により冷却機能が奪われた結果、崩壊熱による冷却水位低下をまねき、炉心燃料棒と使用済み燃料を露出、損傷させ、又、1号機、3号機、4号機では水素爆発が起こって、環境中に放射性物質を大量に放出するにいたりしました。複数機で同時に起こったこの深刻な事態はいまだ収束せず、放射性物質の放出は続いており、今後の見通しさえ立っていないことから、さらなる大事故の恐れも危惧されるところです。

1986年に起こったチェルノブイリ原発事故の教訓から、このような原発事故は万に一つもあってはならないもので、幾重にも安全策が講じられてきたはずであり、原発事故による結果の深刻さを考えれば、「想定外」などという言い訳は通用しないでしょう。まして90年代からは日本列島は地震活動の活発な時期に入ったとの地震学者らによる指摘があり、津波の被害は当然想定されるべきものでした。

今回の事故は様々明らかになっている現在の科学的知見を無視し、自然災害の想定を低く見積もり、幾重にもすべき安全策を怠った結果であり、まさしく人災といわざるを得ません。放射能汚染から避難せざるを得なかった市町村の人々は、震災、津波の被害のうえに、自分の土地で生活するためのすべてを根こそぎ奪われてしまいました。深刻な土壌汚染を考えれば帰れる保証もなくなっています。どのような補償をしても、とても償いきれるもので

はありません。また、日本の農業、水産業に及ぼす影響も計り知れません。

現在、貴社女川原子力発電所、東通原子力発電所は震災を受けて、運転は停止されています。しかしながら炉心、および使用済み燃料プールの冷却は常時必要であり、福島原発のような電源喪失はあってはならないことに変わりはありません。

東北地方太平洋沖地震の余震が頻発し、今後1年はM8クラスの余震が起こってもおかしくないと言われていますが、貴社の原発に対する安全対策はどのようになっているのでしょうか。原発安全神話が崩れた今、私達東北に住むものは、余震のたびに不安に苛まれています。

至急、絶対に事故を起こさないよう、二重、三重の安全対策を講じてください。また、原子力発電の安全に関し、原発事故により避難生活を強いられたすべての福島県民が、事故の完全収束後に元の生活を取り戻すまで、両原発を稼働しないよう、強く求めます。

提出団体

岩手県盛岡市 三陸の海を放射能から守る岩手の会

青森県八戸市 PEACE LAND

青森県上北郡東北町 荒木農場

賛同団体

青森県八戸市 ネットワークみどり

青森県青森市 青森県保険医協会

岩手県宮古市 豊かな三陸の海を守る会

宮城県仙台市 カトリック正義と平和仙台協議会

宮城県仙台市 プルサーマルいらねット仙台

宮城県仙台市 あんしんエネルギー未来プロジェクトin仙台

宮城県仙台市 みやぎ脱原発・風の会

宮城県仙台市 三陸・宮城の海を放射能から守る仙台の会（わかめの会）